

皆さんは『兎と亀』の昔話をご存じですね。『兎と亀』のお話は諸説ありますが、ギリシャ起源の『イソップ寓話』がもとであり、世界中で語られているようです。岩波文庫の山本光雄さん訳の『イソップ寓話集』にはこう書かれています。

「亀と兎が速さのことで争いました。そこで彼らは日時と場所とを定めて別れました。ところが兎はもって生まれた速さを恃んで駆けることをおろそかにし、道をそれて眠っていました。亀の方は自分が遅いことをよく知っていたから、休まず走り続けました。こうして亀は眠っている兎の側を走り過ぎて目的を達し、勝利の褒美を獲ました。

日本で知られている『兎と亀』の昔話とほぼ同じですね。ちなみに、ペルシャ版『兎と亀』では、亀が競争の前に自分そっくりの弟をゴールに立たせておいて、それで亀が競争に勝つお話で、亀の智恵を称讃しています。

さて、日本の『兎と亀』のお話ですが、なぜ兎は亀に負けたのでしょうか。油断をして昼寝をしたためなのですが、兎にはゴールではなく、亀しか見えていなかったのでしょうかね。私たちの娑婆も同じではないでしょうか。人と比較して、安心したり、妬んだり、卑下したり、尊大になったり。その中でしか生きていないような気がします。競争、競争と、競争ばかり叫んでいる。勝ち組・負け組などという言葉まで飛び出して、大切なものを忘れてはいないでしょうか。

では、私たちにとってゴールとは何でしょう。この尊い生を終える時ではないかと思います。その時をどんな気持ちで迎えるのでしょうか。私事ですが、今年の4月に父を亡くし、その後も本当にお世話になった方々と立て続けにお別れしなければなりません。が、どの方々も全てを阿弥陀様にお任せしきった、本当に安らかな尊いお顔でした。最期のお姿からも「ただお念仏」と教えを戴いた思いです。

「ああ、弘誓の強縁、多生にも値いがたく、真実の浄信、億劫にも獲がたし」だからこそ、日頃の様々なご縁を大切にしたいと思います。兎は亀に敗れたことをご縁に、その後の生活が一変したかもしれませんね。